

学科名	情報ビジネス科
コース名	
授業科目	応急手当
必選	選
年次	2年次
実施時期	後期
種別	講義+演習
時間数	15
単位数	1
担当教員	山下 恵子
実務経験	有
実務経験職種	救命救急士
授業概要	負傷や負傷などに対してのさしあたっての手当ての方法を学びます。
到達目標	応急手当の方法としてAEDの使い方、気道異物除去の方法、倒れている人の対応、出血している人への対応、けがをしている人への対応、熱傷の対応、溺れている人への対応方法を理解する。また、サービス介助として、高齢、聴覚障がい者、車いす利用者、視覚障がい者への対応方法を理解することを目標とする。
授業方法	応急手当の方法としてAEDの使い方、気道異物除去の方法、倒れている人の対応、出血している人への対応、けがをしている人への対応、熱傷の対応、溺れている人への対応方法、サービス介助として高齢者、障がい者への対応方法を説明する。
成績評価方法	試験、課題、小テスト等を総合的に評価する。
履修上の注意	授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。また、授業時数の4分の3以上出席しない者は試験を受験することができない。授業の進捗状況により、内容が前後する場合もある。
教科書・教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。

授業計画	
第1回	ガイダンス(応急手当のポイントについて理解できる)
第2回	AEDの使い方（１）(AEDについて理解できる)
第3回	AEDの使い方（２）(AEDを使用した心肺蘇生について理解できる)
第4回	AEDの使い方（３）(AEDを使用した心肺蘇生、実演について理解できる)
第5回	気道異物除去方法(気道異物除去方法について理解できる)
第6回	倒れている人への応対方法(倒れている人への応対について理解できる)
第7回	出血している人への応対方法(出血している人への応対について理解できる)
第8回	けがをしている人への応対方法(けがをしている人への応対について理解できる)
第9回	熱傷の場合の処置方法(熱傷の場合の処置方法について理解できる)
第10回	溺れている方への応対方法(溺れている人への応対方法について理解できる)
第11回	高齢者への理解（１）(高齢者への応対方法について理解できる)
第12回	高齢者への理解（２）(認知症について理解できる)
第13回	高齢者への理解（３）(疑似体験を通じて白内障について理解できる)
第14回	車いす利用者への理解（１）(車いす利用者への応対方法が理解できる)
第15回	車いす利用者への理解（２）(疑似体験を通じて車いす利用について理解できる)